

第Ⅲ部

グローバル人材の育成

(I) シアトル語学研修 報告書

〈参加者〉生徒 7 名 引率教諭 1 名

- ① 目 的 ・ワシントン大学での語学研修や寮生活を通じて、英語力の向上を目指す。
・異文化理解を深めるとともにより広い視野で国際感覚を養う。
- ② 主 催 県立篠山鳳鳴高等学校、県立御影高等学校
- ③ 実施場所 アメリカ合衆国、ワシントン州シアトル
- ④ 期 間 2024 年 7 月 21 日（日）～7 月 30 日（火）
- ⑤ 行 程

月日	場所	時刻	活動内容
1 7/21 (日)	伊丹空港	16:00 18:00 19:15	伊丹空港集合 伊丹空港 出発 (NH036) 羽田空港 到着後乗り継ぎ
	羽田空港	21:15	羽田空港 出発 (NH118)
	SEA 国際空港	14:25	SEA 国際空港到着 水門・Gasworks Park へ移動
	大学寮	16:00	昼食・見学 大学寮へ移動・寮の説明会 UW・寮の食堂にて夕食
2 7/22 (月)	大学寮 UW	9:00～ 18:00	ESL クラスを受講 大学校舎内にて昼食 ワシントン大学内ツアー、大学生との交流等 Bookstore 見学 夕食
3 7/23 (火)	UW シアトル市内 大学寮	9:00～ 18:00	ESL クラスを受講 大学校舎内にて昼食 Greenlake 公園にて現地の人たちと交流 夕食

月日		場所	時刻	活動内容
4	7/24 (水)	UW シアトル市内 大学寮	9:00～ 21:00	ESL クラスを受講 大学校舎内にて昼食 ダウンタウンにて英語のウォークラリー Amazon 社付近にて市内見学 夕食
6	7/26 (金)	UW 大学寮	9:00～ 18:00	ESL クラスを受講 講義（校舎内） 座談会 with Perry 夕食
7	7/27 (土)	シアトル市内 大学寮	8:40 18:00	Pike Place 市場見学 University Village 見学 買い物 夕食 荷造り
8	7/28 (日)	大学寮 シアトル市内	8:40 18:00	グループ集合 チェックアウト スーパーで買い物 Gas works Park で昼食 ハウスボート見学 アーバンクラフトショー見学 女子プロサッカー試合見学 夕食（自炊）
9	7/29 (月)	シアトル市内 SEA 国際空港	7:00 13:30 16:40	片付け 荷造り スターバックス本社見学 集合・チェックアウト SEA 国際空港へ移動 SEA 国際空港到着 SEA 国際空港出発（NH117）
10	7/30 (火)	羽田 空港	19:00 20:30 21:45	羽田空港 到着 乗り継ぎ 出発（NH415） 神戸空港 到着・解散

Seattle



1日目: 日本出発



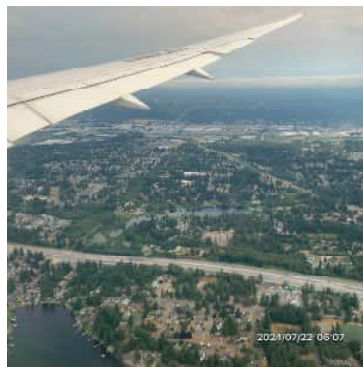
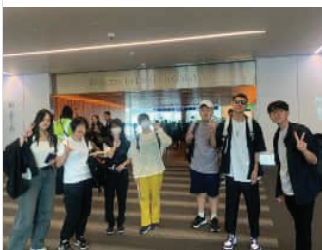
機内食

↓ 夜ご飯

↓ 朝ご飯



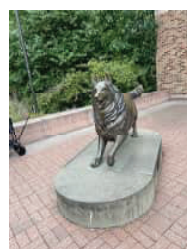
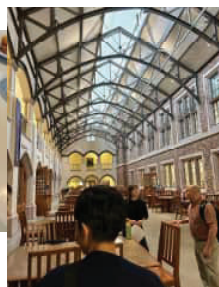
シアトル到着



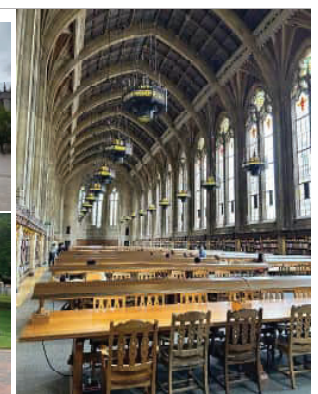
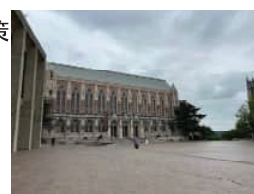
寮



2日目



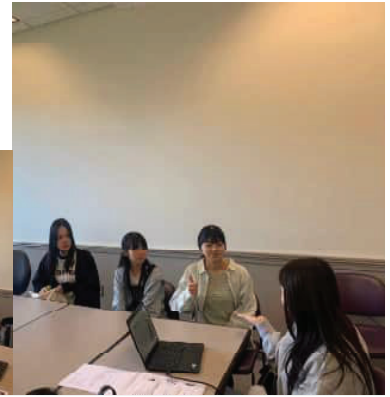
大学内散策





3日目

AM: ESL



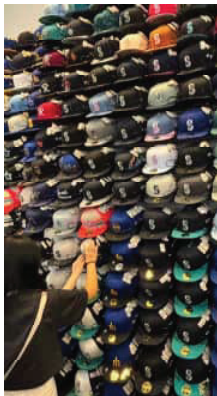
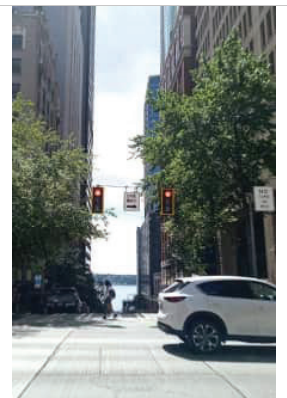
PM: Green Lake



4日目

AM: ESL

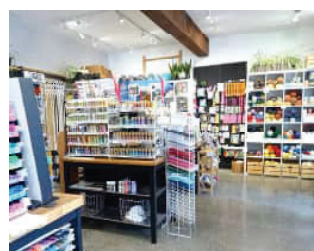
PM: ウォークラリー



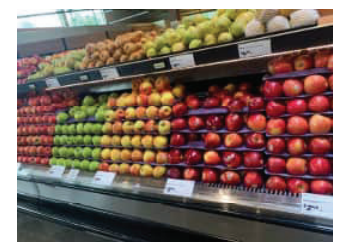
5日目

AM: ESL

PM: Bainbridge Island



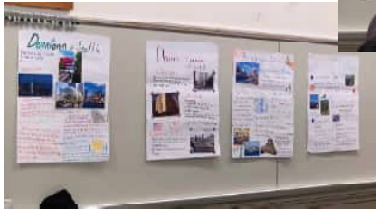
マーケット



6日目

AM: ESL発表

PM: 講演会



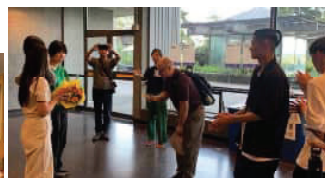
講演会



7日目

AM: Pike Place Market

PM: University Village



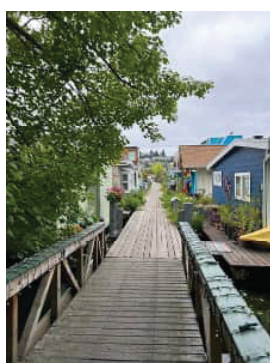
8日目

AM: Gas Works Park

PM: ハウスポート

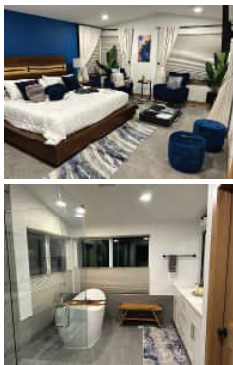
ハンドメイドマーケット

サッカー観戦 など

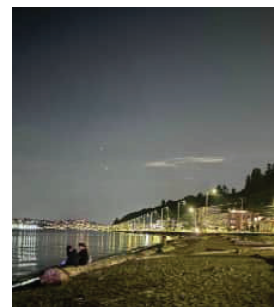


サッカー観戦





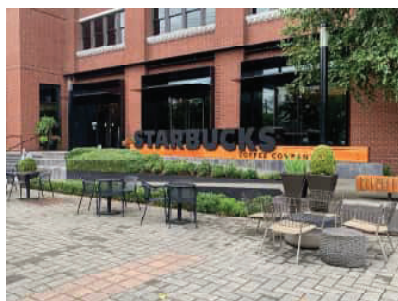
海岸探索



9日目

AM: スターバックス本社

PM: 飛行機搭乗



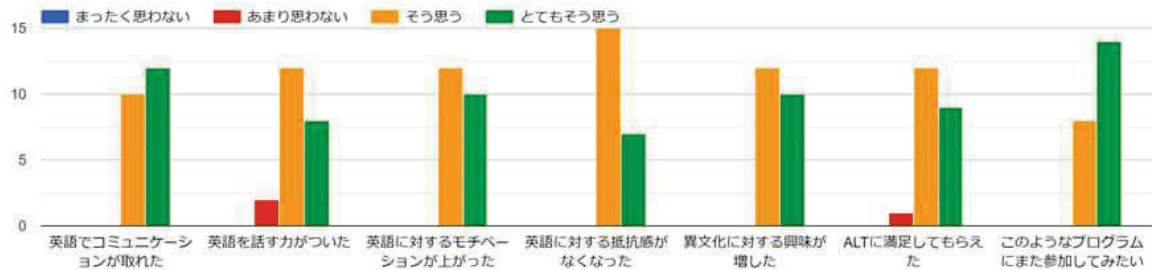
後日



(2) 国際交流バスツアーアンケート結果

11/16(土) プログラム参加生徒26名 ALT8名参加 (アンケート回答数 生徒22、ALT3)
ALT1名につき生徒2~3名のグループで奈良散策 (午前中は奈良学生ガイドとともに東大寺発、午後自由散策)

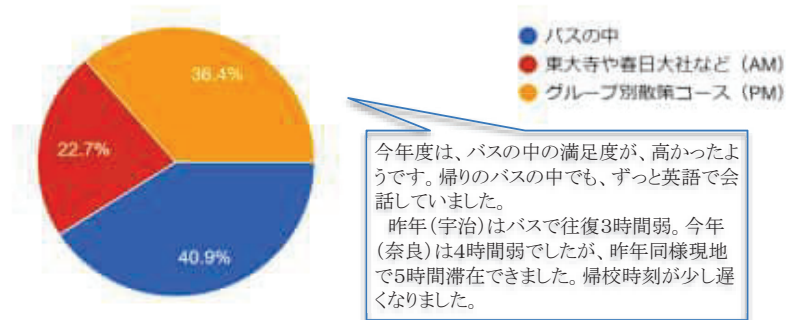
下記の質問に答えてください



【生徒アンケート結果】

今回のツアーで一番印象に残ったのはどの場面ですか。

22件の回答



■このプログラムで満足した点・良かった点を具体的に記述してください

- ・外国人の先生と英語でこんなにたくさん話せる機会がなかったので、今回とても良い経験になりました。勉強している英語を実際に使えたのは難しかったけど楽しかったです。仲良くなれて嬉しかったです。
- ・観光を楽しみながらALTの先生といろいろお話することができ積極的に英語に触れる事が出来て良かったです。自由行動でどこに行きたいか何が食べたいかなど会話することができ自然と英語を使うことが出来ました。
- ・満足した点は、外国人との交流です。思っていたより本当に楽しかったです。バスの中では趣味などを通じて、いろんな楽しい会話をしました。なのに英語も勉強できているというのもとても良い経験だなあと感じました。去年も参加したのですが、今回はより楽しかったので、年々、面白みが増している気がしました。また参加したいと思いました。

■このプログラムの経験を今後どのように生かしていきたいですか

- ・英語の間違った使い方をしたり、文章表現が分からず単語での会話になったりしたので、もっと英語で話せるようにしたい。
- ・言いたいことを英語で伝えるのが難しかったので文法や英単語をもっと覚えていきたいなと思いました。
- ・これからの英語に対する意識変更。苦手意識を持たず向き合っていきたい。
- ・英語で話すときに単語が出てこなかったり戸惑ってしまったことがあったけれど、ALTの人や友達がサポートしてくれたので積極的に話すことができました。なのでこれからも間違いを恐れずに英語を活用したいです。
- ・今回のツアーで本当に英語の必要性が自分の中で高まりました。また、英語力よりも伝えようとする事が一番大切で、いくら英語を知っていても話せなかったら、相手に伝わる情報は0だけど、ジェスチャーとかでもいいし、最低限、文法がめちゃくちゃでも伝えようとする事で、1以上の情報は伝わるということに気づきました。これからは、英語の勉強はもちろんだけど、積極的にこういう体験を自発的に行いたいです。

■このプログラムで改善すべき点があれば具体的に記述して下さい

- ・特になし。素晴らしいプランだと思っている。
- ・自由散策の時間がもっと欲しかったです。
- ・改善すべき点はほとんどないんですが、強いていうと、もう少しだけ早く帰れたらなあと思いました。要望は、外国人が増えたら、班が少人数になって、そのぶん外国人と話す頻度が増えると思うので、できればALTの先生を増やせたらなあと思いました。本当に楽しかったです。



第Ⅳ部

教員研修の充実

(1) DX 機器の活用教員研修会

① VR ゴーグル研修 NTT コミュニケーションズ(株)

- ・メタバースの教育場面での活用について
- ・メタバース各種プラットフォームについて

本校では Cluster をプラットフォームとして、メタバースの活用を検討している状況を説明し、プラットフォーム上でのスペース空間の活用について議論を深めることができた。

② データロガー研修 ケニス(株)

- ・データロガーラボディスクの特徴
- ・実験例と代表的な機能の解説
 - ア 等加速度直線運動の測定
 - イ 中和滴定の計測 等



探究の過程において、アンケート等による人的なエビデンス取得以外にも、科学的なデータ取得を行うために、データロガーの利用方法を習得することができた。

③ ドローン活用研修会 ㈱旭テクノロジー

- ・ドローンの仕組み
- ・国家資格について
- ・ドローン NEO 操作 (実技)
- ・ドローン使用上の注意

ドローン NEO の使い方や実践と共に、校外での活用に向けた飛行許可申請等について研修を受けた。ドローンを使った新しい映像の作り方について、可能性を感じることができた。



④ 動画作成研修会 デジタルハリウッド大学

Adobe Creative Cloud の利用による動画作成の方法を学ぶ。

- ・Premiere Pro の活用方法

探究の成果を映像に収めるための手法についてその指導方法を習得した。

(2) 探究教育研修会 (リサーチエフの進め方)

京都産業大学/NPO 法人ハテナソン共創ラボ理事長 佐藤賢一 教授

- ・探究学習における「問い」の重要性を理解し、指導に活かせる実践的なスキルを習得する。
- ・QFTや「問いみがき」を体験し、生徒の探究活動をサポートするための具体的な手法を学ぶ。
- ・探究学習のプログラムデザインを学び、カリキュラム開発に役立てる。
- ・「問い」の大切さを再認識し、はじめの問いをつくる。
- ・問いを磨き、探究学習をデザインする。

QFT や問いみがきを生徒目線で体験し、生徒の探究活動をより発展させるための問いの立て方について学ぶことができた。

文部科学省委託「高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業」
令和6年度高校コーディネーター研修（オンライン研修5回・対面研修3回）

回	日時	内容・テーマ	講師等
1	7月2日（火）	オンライン研修⑥ 未来の兆しのつかみ方、つなぎ方	New Stories 代表 太田 直樹 氏
2	8月8日（木） ～9日（金）	対面研修④（桜美林大学） 現場を変える！プロジェクトのはじめかた	株式会社 Discovery Studio 代表取締役 今村 亮 氏
3	8月30日（金）	オンライン研修⑦ STEAM 教育の実践	早稲田大学人間科学学術院 森田 裕介 氏
4	9月30日（月）	オンライン研修⑧ 『生徒指導提要（改訂版）』が示すこれからの生徒指導の方向性 ーチームで支える生徒指導の推進ー	関西外国語大学 新井 肇 氏
5	10月30日（水）～ 31日（木）	対面研修⑤（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング本社） 「システム思考とデザイン思考」	東京都市大学環境学部教授 佐藤 真久 氏
6	11月14日（木）	オンライン研修⑨ 地域学校魅力化論	三次市教育委員会 教育次長 豊田 庄吾 氏
7	12月3日（火）	オンライン研修⑩ 学校と企業の持続的関係性の構築	株式会社ソフィア代表取締役 社長 廣田 拓也 氏
8	2月3日（月） 2月4日（火）	対面研修⑥（文部科学省） ふりかえり 高校コーディネーター全国フォーラム	文部科学省初等中等教育局主 任視学官 田村 学 氏

○ オンライン研修⑥_2024.7.2「未来の兆しのつかみ方、つながり方」

事前課題

課題：未来の兆しを見つける

●これからどのような未来がやってくるのかを想像し、そんな未来を感じさせる「面白い！」と思う会社を地域の中で探してください。（「地域」は、生徒が探究活動をしたり、インターンなどでアクセスできる範囲など、自校が定義する地域を想定しています）

●「なぜ面白いと思うのか」を3分間のプレゼンにまとめてください。（リアルタイムで出席されない方もプレゼン資料の作成と提出をしてください）

●余力があれば、その会社の社長や社員に会いに行き、話を聞いてきてください。

★下記にフレームを用意しました。プレゼン資料は、次ページより各自自由に作成してください。

① あなたが想像する未来とは？
「Society5.0の社会」が重なり、情報との結びつきの中で各分野のデジタル化が進んでおり、実際に現場にいなくても可能な仕事は増えていくと考えます。一方で地方から都市への人口流出はますます進み、地方の過疎化と衰退が進むと考えます。

② あなたが「面白い！」と思う会社名と事業内容
狩場一酒造株式会社×「ミチのムコウ」プロジェクト

③ あなたが「面白い！」と思う理由
地方の過疎化に伴い、里山が荒廃し、耕作放棄された農地が増える中で、里山を活性化し、自然環境と調和した持続可能な生き方を実現するプロジェクトであること。

狩場一酒造×「ミチのムコウ」プロジェクト

「100人ではくむ名前はまだ無い日本酒」
企画の日本酒造り

狩場一酒造株式会社

兵庫県丹波篠山市にある1916年（大正5年）創業の蔵元。日本酒「秀月」をはじめとして、酒米由来の様々な商品を販売。

「ミチのムコウ」プロジェクト

29歳でリターン就農された、吉良佳晃氏を中心に立ち上げられた、里山を舞台に持続可能なエコシステムと、その担い手の育成を目指すプロジェクト。

ミチのムコウ



「ミチのムコウ」HPより
<https://michinomukou.org/>

事後学習課題

オンライン研修⑥の受講を踏まえて、「①あなたの身の回りで、十年後に変わっているコトやモノを説明してください。②上記の変化が起こるとしたときに、弊害になることはありますか。あれば挙げてください。③上記の変化にあなたが関わるときに、あなたはどんなことをしますか」。①②③の問いに対して、あなたの意見を理由も併せて、レポートとしてまとめてください。（400～600 字程度）

現代の日本では高齢者の割合が増加しており、出生率が低下している。また都市部への人口流入も続いている。一方で、地方部では人口減少が進行している。今後 10 年でもその傾向は続き、高齢者の割合はますます増加し、出生率は低下するものと考えられる。例えば世代別人口構成における現役世代の割合は低下し、令和 52 年には 65 歳以上の者 1 人に対して現役世代 1.3 人という比率になる見込みである。また 2030 年には世界の都市人口が 50 億人を超え、2040 年には 60 億人に達すると推定されている。日本でも都市部への人口集中が続いている。

10 年後には後期高齢者となる私にできることは非常に限られていると思うが、自分自身が地域の人材となり、新しい時代の教育に携わる人材の育成やサポートに関わることはできるのではないかと考える。

事前課題



**地域 教育 協働 在
プロジェクトチーム**

課題：プロジェクトをデザインしよう

- 1. 課題内容**

事前学習動画をみて、プロジェクトをデザインし、プロジェクト計画シートを提出
- 2. プロジェクトの条件**

WHO：学習者の皆さんが、
WHERE：学習者の皆さんが持っている現場で、
WHEN：R6年度を期限に、（成果発表は対面研修⑥/2月上旬に行います）
WHAT：現場で叶えたビジョン達成、問題・課題解決に資する活動
- 3. 課題の趣旨**

高校コーディネーター研修では、単なる知識習得の研修に止まらず、アクティブラーニングを通して、学習者の自らの定着と学習者同士のコミュニティの形成を目指しています。
学習者自身が目的・目標を実現するための課題を設定し、現場と研修を往還し取り組むことで、主体的に学習に取り組むことを目的としています。
- 4. 課題の取り扱い**

①本課題は、**学習者全員が提出**してください。（対面研修④に不参加の方も提出）
②8月8-9日に開催する対面研修④では、事前学習として取り組んだ本課題を元に、学習者同士の対話によってブラッシュアップを行いますので、印刷して持参してください。
③対面研修⑥（最終回）では、プロジェクトの成果について発表していただきます
- 5. 課題提出期限**

8月7日正午まで Slackに提出してください

① ワークショップとは何でしょうか？本研修を受講して得られた知識を活用しながら、記述してください。

①ワークショップとは、参加者が主体的な体験を行うイベントや講座のことで、一方通行的な知や技術の伝達でなく、グループの相互作用の中での意見交換や実践的な学びを通して知識やスキルを身につける、双方向的な学びと創造のスタイルである。

②ワークショップは、ファシリテーターと参加者との双方向的な学びと創造の場であるが、個人の変容・成長とともに、平和・人権教育や国

[illegible]

際理解教育など社会変革のベクトルも有するものである。従って、学校と地域とをつなぐのみならず、ワークショップを通して地域を変革していくという意味で大きな意味を持つと考える。

○ オンライン研修⑦ 2024. 8. 30「STEAM 教育の実践」

事前課題

課題2：自校でのSTEAM教育の実施状況を調査する

自校において、実践している、もしくは検討しているSTEAM教育についてまとめてください。自校でSTEAM教育を実施していない、もしくは検討していない場合は、その理由をまとめてください。量体中なので、できる範囲で構いません。

令和6年度より普通科新学科「STEAM探究科」を設置し、学校設定科目や総合的な探究の時間を中心に魅力特色ある教育を展開

本校が目指す広い視野を持ち世界に通用するグローバルな人材の育成には、主体性や論理的な思考力が不可欠である。そのためには、生徒たちが「あったらいいな」「できないな」とワクワクしながら課題解決に向かい、それを実社会で提案していくうえで、客観的な根拠に基づく未来志向の提案ができればならない。そのため文理融合の学びを土台とし、調査や情報収集を積み重ね、精緻なデータ分析に基づいて解決策を発想し、先端技術を利用したプロトタイプの実験などに新しい発想を提案できる力を付けていく必要がある。こうした力の育成に向けて令和6年度から普通科新学科「STEAM探究科」を設置し、新たな価値を創造できる6つの能力「新たな課題を発見する力」「新たな価値を創造する力」「デザイン力」「対話力」「活用力」「思考力」の育成を目指して、地域や国際社会で貢献できる人材を育成することとした。

「STEAM探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（総合的な探究の時間）計5単位

- 身近な生活・身近な社会に課題を発見し、主体的に課題解決に向き合い、多角的な視点で情報収集を行う。そのうえで課題の背景・現状について、根拠に基づきわかりやすく他者に伝える力を身につける。
- 文献調査・統計データ・アンケート・観察・実験などで得たデータの分析を行い、仮説検証を繰り返す。
- 各教科の学びを融合し、既存の価値や新たな発想を有機的に学ぶ「デザイン思考」を育成する。
- 事業計画の技術や管理し、効果を取り入れたプレゼンテーションを作成する。
- 探究のプロセス（ストーリー）をアートとして表現し、探究の成果を発表する。

「風鳴探究基礎」「デジタルメディア」（学校設定科目）計2単位

- 探究的な思考や整理、統計資料や情報収集したデータの処理、先端技術の活用、また表現等の手法を習得する。
- 仮説検証のための統計学やデータサイエンスの演習から課題解決方法を導き、探究活動を通して実践する。

【兵庫県立篠山鳳鳴高等学校】その他普通科「STEAM探究科」（令和6年度開設）

PHOENIX STEAM 未来を切り拓く鳳鳴力

●「STEAM探究科」の意義
 最先端の技術や文化、科学的知識に基づき課題の解決。社会と密着して新たな社会を創造する能力を養い、国際社会で活躍する人材の育成を目指す。

STEAM探究科（単位制）

歴史と文化の府「丹波篠山」を舞台に
 鳳鳴高校生が紡ぐ探究のストーリー

＜PHOENIX STEAM＞

Arts
 Science
 Technology
 Engineering
 Mathematics

STEAM探究科（単位制）

【3年】 STEAM探究Ⅲ
 ・探究活動の総まとめ
 ・探究活動の振り返り

【2年】 STEAM探究Ⅱ
 ・探究活動の総まとめ
 ・探究活動の振り返り

【1年】 STEAM探究Ⅰ
 ・探究活動の総まとめ
 ・探究活動の振り返り

STEAM教育コンソーシアム

NPO法人 篠山鳳鳴高校 自治体
 企業 コーディネーター 大学
 国際機関 研究機関

現代の課題に即した課題設定、課題解決

特色ある授業展開

- ・教科横断型学習
- ・少人数制
- ・異動クラスの実施
- ・公開授業

課題3：地域・社会のリソースを探す

自校がアクセスできる地域・社会で、STEAM教育の資源になりそうな人材・組織、団体・プログラムなどをまとめてください。

地域社会等

- ・丹波篠山市役所
- ・丹波篠山市商工会
- ・同窓会
- ・関西経済連合会

特別講座協力企業・人材等

- ・メットライフ生命株式会社
- ・株式会社日本ビジネスデベロップメントセンター
- ・株式会社桂松電機 代表 桂松智氏
- ・株式会社NOTE代表取締役 藤島忠史氏
- ・カーネギーメロン大学 金出武雄教授

大学

- ・兵庫県大学（連携協定校）
- ・京都大学（兵庫県連携校）
- ・大阪大学（兵庫県連携校）
- ・神戸大学（兵庫県連携校）
- ・静岡県立大学（探究活動協力校）

教育行政

- ・兵庫県教育委員会
- ・兵庫県総合教育センター
- ・兵庫県情報政策課

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校「STEAM探究科」ログブックモデル

インプット アクティビティ アウトプット 中間アウトカム 最終アウトカム

1. 探究テーマの選定
 2. 探究計画の立案
 3. 探究活動の実施
 4. 探究成果の発表
 5. 探究活動の振り返り

探究テーマの選定
 探究計画の立案
 探究活動の実施
 探究成果の発表
 探究活動の振り返り

探究テーマの選定
 探究計画の立案
 探究活動の実施
 探究成果の発表
 探究活動の振り返り

探究テーマの選定
 探究計画の立案
 探究活動の実施
 探究成果の発表
 探究活動の振り返り

探究テーマの選定
 探究計画の立案
 探究活動の実施
 探究成果の発表
 探究活動の振り返り

事後学習課題

自校において実践している方：STEAM 教育の改善案もしくは新たな提案を考えてください。
 まだ実践していない方：これから実施しようとする STEAM 教育の案を考えてください。

課題に対して多角的な視点からアプローチしようという取り組みは継続したい。しかし、一人ひとりがそれぞれの視点からアプローチするだけでは、結局サイロ化した教科教育の枠から脱却したことにはならないのではないのか。教科レベルでも教科横断レベルでもなく、統合レベルでの STEAM 化が必要だと考える。例えば、異なる視点からアプローチをする生徒間でのディスカッションやディベートなどを通して、さらに全体としてブラッシュアップされた探究活動に高める、等の取り組みができないかと考える。

○ オンライン研修⑧_2024. 9. 30『生徒指導提要（改訂版）』が示すこれからの生徒指導の方向性 ―チームで支える生徒指導の推進―

事前課題

課題1：自校の生徒指導上の課題について考えてみよう

文部科学省の「問題行動調査」に提出している自校の生徒指導に関するデータ（いじめ・不登校・暴力行為・自殺等）について、昨年度までの5年分を整理したうえで、自校の管理職、および生徒指導主事の先生などに、「自校の生徒指導上の課題は何か」ということについて尋ねるとともに、意見交換してみましょう。

○文科省「問題行動調査」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm

○生徒指導傾向について
いじめ認定に相当する事件はほとんどないが、人間関係に起因するトラブルは多く、特に、SNS上でのトラブルが多い。
不登校生徒は減少傾向にあるが、潜在的なものも含め、欠席が続いたり、一定期間の欠席が見られたりする生徒は各学年において数多く存在する。
暴力行為などのいわゆる問題行動はほとんど見られない。

○生徒指導上の課題について
問題行動の発生件数は少なく、多くの生徒が安全に明るく学校生活を送っている。一方、SNSを中心に人間関係のトラブルを抱える生徒も多く、コミュニケーション力の欠如が随所に感じられる。日常的にアサーショントレーニングの機会を設けたり、生徒面談を繰り返すなど、生徒の生活実態把握に努める必要がある。
長期欠席の生徒は少ないが、特にコロナ禍以降、学校を欠席することに対する抵抗感は確実に減少していると思われる。体調不良を理由とする欠席者は5年前と比較しても増えていいると感じられる。

課題2：『生徒指導提要（改訂版）』について知っておこう

NITSの生徒指導の動画（新井担当）を観たうえで、自校の管理職、および生徒指導主事の先生などに、①『生徒指導提要（改訂版）』を読んだ感想（生徒指導に変わったかどうかなど）
②教職員間で共通理解されているかどうか（そもそも教職員は読んでいるか）
③どのように活用しているのか（あるいは、これからどのように活用したいと考えているか）
ということについて尋ねるとともに、意見交換してみましょう。

「生徒指導Ⅰ」「生徒指導提要」の改訂をまとめたこれからの生徒指導の方向性（関西外国語大学 新井 肇）
<https://www.youtube.com/watch?v=sVEUcdCVdU>
「生徒指導Ⅱ」学校・教職員に求められる生徒指導の進め方（関西外国語大学 新井 肇）
<https://www.youtube.com/watch?v=kys1neF30M>

①『生徒指導提要（改訂版）』を読んだ感想（生徒指導に変わったかどうかなど）
求められる価値観の更新が求められたという認識である。特に、問題行動の抑止・個別事案への対応としての生徒指導という側面は前時代的なものとなっていき、
②全教職員が『生徒指導提要（改訂版）』を読んでいるとは思えないが、その趣旨については、校内において職員会議や研修会などを通して共有されている。
③校則をはじめとする校内のルール作りや、生徒に対応する場合の受容的な姿勢など、実践的な場面で活用している。

課題3：教職員間の連携の現状と課題について考えてみよう

自校の『学校要覧』に目を通したうえで、学年や校務分掌それぞれにおいて、また、それらを横断して、教職員間の連携がとれているかどうか、検討してみましょう。とれているとしたら、どうして連携がうまくいっているのか、連携がうまくとれていないとしたら、どこに原因があるのか、ということについて考えてみましょう。

校務分掌組織としては、学年外の専門部署として「生徒指導部」が置かれ、生徒指導上の諸問題への対応や生徒活動はもろにこのこと、いじめ対策や保健、教育相談、特別支援教育など幅広く取り組んでいる。

校務分掌の特を越えた委員会組織として「生徒指導委員会」「特別支援教育委員会」「学校保健委員会」がいじめ対応チームが設置されている。これらの委員会組織は生徒指導部員以外に各学年や関係部署の教員も参加しており、組織的には横断的な連携がとれていると考えられる。

小規模校という要素が大きいが、教職員の人数が少ないため、情報共有は比較的しやすい。一方で、情報や課題共有が関係する部署（または委員会）内にとどまりがち傾向も見られる。ただしこれは生徒指導が個人情報に直接つながることが多く、デリケートな事案が多いことも関係すると考えられる。

事後学習課題

生徒指導は、学校の中だけで完結するものではなく、家庭や地域及び関係機関等との連携・協働に基づき、児童生徒の成長・発達を支えるという広い視野から地域全体で取り組む「社会に開かれた生徒指導」として推進を図ることが重要です。そのためには、域学校協働活動（「学校を核とした地域づくり」）等の一層の充実が求められます。具体的な取

り組みとして、どのようなことが考えられるのか、また、そのなかで、皆さん高校コーディネーターが果たすべき役割とはどのようなものなのか、講義を振り返りながら、考えてみましょう。（字数制限はしませんが、500字程度でまとめてみましょう）

域学校協働活動の具体的な取り組みとしては、以下のようなものが考えられる。

「地域イベントの開催」→地域の祭りや文化イベントに学校が積極的に参加し、生徒が地域の一員として活動する機会を提供する。

「職場体験やインターンシップ」→地元企業や団体と連携し、生徒が実際の職場で働く体験を通じて社会の仕組みを学ぶ。

「自然体験活動」→地域の自然環境を活用したキャンプやハイキングなどの活動を通じて、生徒の心身の成長を促す。

「地域清掃活動」→生徒が地域の清掃活動に参加し、地域社会への貢献意識を育む。

このような活動の実践における高校コーディネーターの役割は非常に重要である。まず、地域との連携活動やイベントの企画・運営を担当し、実施に向けた具体的な計画を立て、次に、

学校と地域、保護者、関係機関との連絡調整を行い、円滑なコミュニケーションを図る。
また、地域資源や活動に関する情報を学校に提供し、教育活動に活用することも必要である。
さらには、教職員や地域住民向けの研修を企画・実施し、連携・協働のスキルを向上させる、
地域の人材や施設を活用し、教育活動を充実させる、といった役割が考えられる。

○ 対面研修研修⑤_2024. 10. 30～31「システム思考とデザイン思考」

事前課題

課題1：高校CNが現場で活躍している理想の姿

動画視聴、書籍を読み込んだ上で、高校CNが現場で活躍している理想の姿を述べてください。文章はもとより、イラストや図などで表現して構いません。

校内会議 探究活動 広報 高校CN 教育委員会や市役所など行政との連携 地域の企業との連携 大学との連携 NPOとの連携 地域

校内外のニーズを把握し、地域の代弁者として協働 書類作成 校内・校外文章の作成 高等学校

事後学習課題

今回のビジョンづくりからプロジェクトづくりの方法を学んだ上で、今年度策定した、ご自身のプロジェクトを振り返り、改善点やプロジェクト推進策を記述してください。600～800字ぐらい。

「探究 Day イベント化プロジェクト」

本プロジェクトは、3月に行われる探究発表会（探究 Day）を社会に開かれたものに発展させることにより、生徒の探究活動に対する視野を広げ、STEAM探究の取り組みを地域に広め、また県内STEAM探究科4校の連携を深めることを目的としている。現行の探究発表会は外部の参観者は多数あるが、発表そのものは生徒のみにとどまっており、発表方法もポスター発表に限っているため、画一的な発表

課題2：高校CNが学校や地域等から活かされている姿

課題1で示した、高校CNが、学校や地域などからどのように活かされているのか、理想の姿を記述してください。文章だけでなく、イラストや図なども合わせて、表現してください。

探究活動 生徒のファシリテート 先生ファシリテート 高等学校

高校CN 学校を舞台にしたイベントやワークショップの企画や運営 企画書 地域 地域のニーズ

□人を生かすことによって自己肯定感が高まる。
□社会（人々）をつなぐことによって自分が生かされている。

表会になってしまっている。そこで、探究 Day で校内外の様々な探究活動に触れることにより、生徒自身が新しい価値観を発見・創造できる場となるよう、OB 大学生やコーディネーターのプレゼン、他校の STEAM 探究科のプレゼンなど発表のスタイルや内容を幅広いものにし、STEAM 探究の取り組みへの認知度を高めるとともに他校との連携を深めることを目標とした。

現状としては、探究 Day プログラムの立案、大学生発表者の選定・依頼は完了し、「丹波

順調に進んでいる部分もあるが、人的ネットワークの構築の問題から、変更を余儀なくされた部分もある。チーム力を活用しながら計画を進めていきたい。

体操の指導を行うボランティア活動を推進する。これにより、生徒は社会貢献の意識を高め、高齢者は生活の質を向上させることができる。

次に、地域経済活性化プロジェクト。地元企業や農家と連携し、マーケティングや商品開発の支援を行う。例えば、生徒が地元産品のPR動画を制作したり、SNSを活用した販売促進活動を行ったりすることが考えられる。

さらに、観光ガイド活動。丹波篠山市の観光スポットを紹介するガイドツアーを生徒が企画・運営する。これにより、生徒は地域の歴史や文化を学び、観光客に魅力を伝えるスキルを身につけることができる。

○ オンライン研修⑩_2024.12.3「学校と企業の持続的関係性の構築」

事前課題

「新時代に対応した高等学校送達推進事業」
令和6年度高校コーディネーター研修

学校と企業の持続的関係性の構築

事前課題用シート



2025/2/17

講義の概要

■講義名
学校と企業の持続的関係性の構築

■本講義の目的

- ・ 授業活動にさらに寄り添いものしていくための一つの手段として、企業などの外部資源の重要性とその活用方法について学ぶ
- ・ 協働的に外部資源を顕微鏡し、学校と企業がどのように関係性を深めていくのか、そのプロセスや課題について学ぶ
- ・ 持続的関係性の実現のために、高校コーディネータが持つべきスキル・マインドセットを大まかに理解し、本研修全体で学習した内容と結びけを行う
- ・ これらを踏まえ、自身が担当する高校における企業などの外部資源の顕微鏡における現状と課題を分析し、今後のアクションを想定していく

■対象とするスキル

- ・ 地域学校協働活動、コンソーシアム、協働ガバナンス、外部資源顕微鏡方法、ファンディング、人的ネットワーク、ソーシャルキャピタル、高能力、ビジョン共有、プロジェクトマネジメント、人材開発、組織開発、土壌づくり

事前課題の概要

■事前課題の目的

- ・ 自身が担当する高校と企業との連携の深さをアセスメントし、ありたい姿と課題を顕微鏡にしたうえで、次のアクションへつなげていく
- ・ 事前課題：企業と高校の関係性の深さ、連携のテーマや目的、協力してくれている企業の顕微鏡見と現状を顕微鏡し、ともに、関係性をさらに顕微鏡するための課題・壁について顕微鏡していくこと
- ・ 当日の演習：ありたい姿やゴールと現状とのギャップを顕微鏡にして、そのギャップを埋めるための課題顕微鏡方法と活動計画を検討する

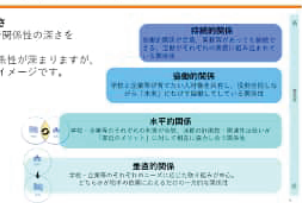
■事前課題の進め方

- ・ 次ページ「事前課題シート」に沿って、自身が担当する高校の情報を収集し、記入をお願いします。
- ・ 情報収集に当たっては、ヒアリングを行う、もしくはこれまでに顕微鏡してきた顕微鏡をベースに記入をしましょう。（想像や顕微鏡では行わないこと）
- ・ 複数校を担当している場合には、そのうちの1つを選んでいただく形で結構です。

事前課題シート① 関係性の深さ

企業と高校の関係性の深さ

右図のように4つの段階で関係性の深さを表現しています。上にいけば行くほど、関係性が深まりますが、顕微鏡度が高くなっていくイメージです。



【顕微鏡しているもしくは顕微鏡している関係と企業との関係性上上の顕微鏡のうち一つを選んでみましょう。またその顕微鏡を記入してください。】

関係性の深さ： 偶発的関係 ・ 水平的関係 ・ 垂直的関係 ・ 協働的関係 ・ 持続的関係

その理由：学校・企業方ともに手探りの段階で、関係の顕微鏡に向けて顕微鏡しながら顕微鏡している状態。

事前課題シート① 関係の状態

連携のテーマや目的、協力してくれている企業の顕微鏡見と現状を顕微鏡するとともに、関係性をさらに顕微鏡するための課題・壁について顕微鏡してみましょう

項目	内容	備考
学校によって企業と連携・顕微鏡する目的は何か？ どんな顕微鏡で企業の顕微鏡を顕微鏡しているのか？	・ 企業との顕微鏡がどのような顕微鏡で、顕微鏡の顕微鏡・顕微鏡の顕微鏡が顕微鏡した。顕微鏡の顕微鏡を顕微鏡することが顕微鏡。	
協力してくれている企業の顕微鏡見と顕微鏡は何か？	・ 顕微鏡の顕微鏡が顕微鏡を顕微鏡するため、顕微鏡の顕微鏡が顕微鏡の顕微鏡を顕微鏡することが顕微鏡。	
今後、高校と企業間関係性を顕微鏡するための課題や顕微鏡は何か？	・ 顕微鏡の顕微鏡が顕微鏡の顕微鏡を顕微鏡するため、顕微鏡の顕微鏡が顕微鏡の顕微鏡を顕微鏡することが顕微鏡。	

事後学習課題

オンライン研修⑩を受講した上で、「学校と企業の持続的関係性におけるコーディネーターの役割とは何か？」を記述してください。（600 字程度）

高等学校と企業とが協働的な連携関係を構築することで、企業は生徒に対して実践的な経験を提供することができ、高校は生徒に社会で必要とされるスキルを身につけさせることができる。まず、高校コーディネーターの最も重要な役割は、学校と企業との間の情報伝達を円滑に行うことだ。学校側の教育方針や生徒の特性を理解した上で、企業側に適切な提案を行い、企業が求めるスキルや経験が生徒に提供できるように調整する。また、企業側の求める業務内容や条件を学校に正確に伝え、双方の理解を深めることが必要だ。次に、高校コーディネーターは、企業との連携を通じて生徒に多様な学びの機会を提供する役割も担っている。コーディネーターはこれらの活動が生徒の成長につながるよう、計画的にプログラムを進行し、サポートすることが求められる。さらに、高校コーディネーターは、企業との連携が持続可能であるよう、関係の維持・発展に努めることも求められる。短期的な成果だけでなく、長期的な視野で学校と企業が協力し合い、両者にとって有益な関係を作り上げることが大切だ。高校コーディネーターの役割は、単なる仲介者にとどまらず、学校と企業が相互に利益を得られるように調整し、持続可能な関係性を構築することである。このような役割を果たすことで、高校と企業の連携は、学生にとっても社会にとっても有意義なものとなる。

○ 研修対面研修⑥_2025. 2. 3～4「ふりかえり」

事前課題

対面研修③の動画を視聴の上、この1年間、プロジェクトを実施した成果を、下記の観点を踏まえて、まとめてください。（発表時間は8分です。4～5人に対して発表するイメージでご準備ください。発表方法は、PCを使ってスライドで説明しても、スケッチブックなどを活用した紙芝居形式でもよいです。）



探究Dayイベント化プロジェクト	
目的	社会に関わった探究発表会に発展させることにより、生徒の探究活動に対する視野を広げ、STEAM探究の取り組みを地域に広める。また県内STEAM探究科4校の連携を深める。
アクション & 結果	- 探究Dayプログラムの立案 → ○ - 大生発表者の選定、依頼 → ○ - 高校コーディネーターへの発表依頼と内容確認 → × - 他校STEAM探究科との打合せ・オンラインによる中間報告会 → △ - 会場デザインの計画 → △
経験	- 実現可能なプロジェクトに傾きすぎたかも。（挑戦力の弱さ） - コーディネーターの発表が実現しなかったのは残念。（準備力の弱さ） - 一歩進めたことで、次の足掛かりに。（突破力の高まり）
学び	- リスク管理能力の重要性（起こりうる可能性の検討と対策） - 周回の理解と協力
法則	- できない理由よりやれる方法を探る！ - 一人よりもチーム！
計画	あってほしい未来に向けてさらにステップアップ

探究Dayイベント化プロジェクト

目的

社会に開かれた探究発表会に発展させることにより、生徒の探究活動に対する視野を広げ、STEAM探究の取り組みを地域に広める。また県内STEAM探究科4校の連携を深める。

目標

令和7年3月6日の第2回探究Dayにおいて、OB大学生やコーディネーターのプレゼン、他校のSTEAM探究科のプレゼンなど発表のスタイルや内容を幅広いものにし、STEAM探究の取り組みへの認知度を高めるとともに他校との連携を深める。

探究Dayイベント化プロジェクト

計画

- ・探究Dayプログラムの立案
- ・大学生発表者の選定、依頼
- ・高校コーディネーターへの発表依頼と内容確認
- ・他校STEAM探究科との打合せ・オンラインによる中間報告会
- ・会場デザインの計画



探究Dayイベント化プロジェクト

経験

- ・実現可能なプロジェクトに傾きすぎたかも。（挑戦力の弱さ）
- ・コーディネーターの発表が実現しなかったのは残念。（準備力の弱さ）
- ・一歩進めたことで、次への足掛かりに。（突破力の高まり）



探究Dayイベント化プロジェクト

学び

- ・リスク管理能力の重要性（起こりうる可能性の検討と対策）
- ・周囲の理解と協力



探究Dayイベント化プロジェクト

法則

- ・できない理由よりやれる方法を探る！
- ・一人よりもチーム！

計画

- ・あってほしい未来に向けてさらにステップアップ

事後学習課題

プロジェクトを実施（及び、対面研修⑥での仲間からのフィードバックを経て）したことで学んだこと、自分自身の変化、気づきについて、自由に記述してください。また、今回の学びを次はどのように活かそうと考えていますか？

自分自身の思考の癖として、ネガティブ思考が挙げられる。興味の薄い内容に対して、できない理由探しを無意識にしてしまう傾向がある。しかし、興味の薄い内容であっても、その面白さを探ることによって、実現したら現状はどう変わるのか、変えられるのか考えることができるようになった。そのことが、新たな興味・関心につながり、やれる条件を考えるようになる。また、自分は他の人から頼られたり、任せてもらえる環境がモチベーション

の源になる。一方で、周囲がそれぞれの部署で、「大人として」仕事をしていることも重要なファクターとなる。

今後は、新時代の新しい教育、生徒が生き生きと学び、学力を身につけることができる学習について、指導者として模索していきたい。

2年間の高校コーディネーター研修を終えて

本研修は、高校コーディネーター（以下高校 CN）の基本的な資質能力（高校 CN のレディネス）の習得と高校 CN コミュニティーの形成を目的として実施され、令和5年度と6年度の2年間にわたり、対面研修6回、オンライン研修10回で構成された。

育成したい高校 CN 像は、「よりよい教育を通じたよりよい社会づくりに向け、関係機関との連携・協働による高等学校の特色化・魅力化及び人づくり・つながりづくり・地域づくりに従事する専門人材」と定義される。以下に対面研修⑥（最終回）の到達目標を挙げる。

【情報収集・発信力】ヒアリングや日常会話を通し、自分に必要な情報を相手から引き出すことができる。社会に開かれた教育課程に必要な外部資源について、自ら積極的に動いて情報収集することができる。

【ネットワーキング力】ネットワーキングの活性化に寄与できている。

【人間関係形成力】ラポールの形成の重要性を認知しており、チームメンバー同士の支え合いや学び合いができている。

【課題解決力】自校や地域・社会の課題が何かを考え、解決に必要な手段を見極められている。

【組織改革支援力】プロジェクトを進めるにあたり、グループやグループ間、組織全体の関係性に注目し、働きかけることができる。

【自己認知力】自分の強みや弱みを理解し、内省を通して自身のメンタルモデル（思考の癖）に気づくことができる。

【志の設定・志の育给力】高校 CN の仕事を通して、どんな自分になりたいか、そのためにどのように自己を磨いていきたいか発表することができる。

【学びに向かう姿勢】自分が必要なテーマについて、学習者どうしで学び合いの場をつくられている。

外部にひらかれた学校づくりのため、特に地域社会と学校をつなぐ高校 CN の需要は今後ますます高まると考える。特に探究活動においては企業や大学との連携が求められるが、学校と企業、学校と大学をつなぐ役割は、教員の業務負担の増加に直結するとともに、地域の人材活用などは教員が苦手とする分野でもある。高校 CN の業務は多岐にわたり、それぞれの学校の実情とニーズに応じて、高校 CN のあり方は変わるが、上記の8つの到達目標は、すべての業務において必要なレディネスとなるはずである。しかし、これだけの資質を

有した人材が多く存在するわけではなく、実際には現場教員との協働を通して身に着けていくべきものであると考えられる。また高校現場からは、常勤で校務分掌に位置付けられた形での勤務がベストである。非常勤としての高校 CN は業務内容が非常に限定され、本人の資質とは関係なく、CN の有効活用が困難な状況に陥りやすい。ところが、常勤での勤務を期待するためには、高校 CN を職業として成立させ、生活を保障するだけの経済的な裏付けが必要である。現状、多くの高校 CN は定年退職後の元教員が非常勤講師として担っているか、CN としての業務以外に正業を有しているかの場合が多い。今後、多くの高校に高校 CN が配置されるようになるためには、まず、職業の一つとして高校 CN を位置付けられるような身分保障と、育成のための体系的で組織的なシステム作りが必要であると考えられる。

4. 【受講後】受講後（対面研修⑥の後）の変化の有無、目標達成度について記入してください				
高校CNのレディネス/ビジョン				
あなたが考える高校CNのレディネスとレディネスに必要な資質能力を記入してください。また、あなた自身が目標とする高校CN像も記載してください。変化があった場合は、理由も記入してください。				
自己評価 研修内容が 課題解決に寄与した程度 研修内容が 課題解決に寄与した程度 どの研修が、どのように 課題解決に寄与しましたか？ 自学自習や自主ゼミが 課題解決に寄与した程度 自学自習や自主ゼミが 課題解決に寄与した程度 自学自習や自主ゼミが 課題解決に寄与した程度 どのような自学自習／自主ゼミが 課題解決に寄与しましたか？	①高校CNとは何か？ 高校CNのレディネスとは？ 高等学校の環境活動について生徒・教員・の協働・指導を行うとともに、関係する外部機関・部署との連絡・調整が行われていることがレディネスとなる。ただし、これらは高校CNの業務の一部にすぎず、実際の業務は非常に多岐にわたることが理解できた。	②高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？ 行動力・協働意欲・柔軟性・判断力・人材発掘力 生徒行走の引き出しが多様であること。	③あなたが目標とする高校CN像はどのような人か？ 現場教員の思いや願いを受けとめながら適切な助言や指導を行うことができる。また、探究活動のカリキュラム作成に際して、従来の型にとらわれない新しい活動を提言できる。また、生徒の伴走だけではなく、教師の伴走ができる人材が求められる。	
	①自分の課題解決 4：目標以上の成果（課題解決）が得られた ③：目標どおりの成果（課題解決）が得られた 2：一定の成果（課題解決）は得られたが目標には届かなかった 1：ほとんど成果（課題解決）は得られなかった	②関係構築の課題解決 4：目標以上の成果（課題解決）が得られた ③：目標どおりの成果（課題解決）が得られた 2：一定の成果（課題解決）は得られたが目標には届かなかった 1：ほとんど成果（課題解決）は得られなかった	③プロジェクトの目標達成 4：目標以上の成果（課題解決）が得られた ③：目標どおりの成果（課題解決）が得られた 2：一定の成果（課題解決）は得られたが目標には届かなかった 1：ほとんど成果（課題解決）は得られなかった	
	4：課題解決に、予想以上に寄与した ③：課題解決に、寄与した 2：課題解決に、ほとんど寄与しなかった 1：課題解決に、まったく寄与しなかった	4：課題解決に、予想以上に寄与した ③：課題解決に、寄与した 2：課題解決に、ほとんど寄与しなかった 1：課題解決に、まったく寄与しなかった	4：目標達成（課題解決）に、予想以上に寄与した ③：目標達成（課題解決）に、寄与した 2：目標達成（課題解決）に、ほとんど寄与しなかった 1：目標達成（課題解決）に、まったく寄与しなかった	
	対面研修⑤（東京）の内容はデザイン思考について理解を進めるものであった。プログラムの設計・立案の際の思考に非常に役立った。	オンライン研修⑨により「よりよい社会づくり」のための協働という視点が得られたことは非常に大きな学びとなった。	オンライン研修⑦はSTEAM教育についての内容であったが、STEAM探究を行う本校においての重要な学びとなった。	
	4：課題解決に、予想以上に寄与した 3：課題解決に、寄与した 2：課題解決に、ほとんど寄与しなかった ①：課題解決に、まったく寄与しなかった	4：課題解決に、予想以上に寄与した 3：課題解決に、寄与した 2：課題解決に、ほとんど寄与しなかった ①：課題解決に、まったく寄与しなかった	4：目標達成（課題解決）に、予想以上に寄与した 3：目標達成（課題解決）に、寄与した 2：目標達成（課題解決）に、ほとんど寄与しなかった ①：目標達成（課題解決）に、まったく寄与しなかった	
	自学自習や自主ゼミが 課題解決に寄与した程度			

先進校・先進企業等訪問

訪問先 東京大学

① 日時 令和6年11月11日（月）～12日（火）

ドルトン東京学園中部・高等部

NTT インターコミュニケーション・センター

パナソニック クリエイティブミュージアム AkeruE

② 視察項目 (1) 東京大学制作展 2024 見学

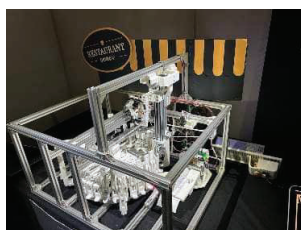
(2) 東京大学制作展出展者（大学院生）との意見交換会

(3) ドルトンプランに基づくドルトン東京学園の取り組みについて

(4) 学校説明と意見交換、連携交渉

(5) STEAM 関連施設訪問

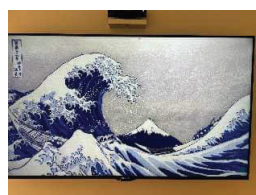
(東京大学)



(ドルトン東京学園)



(NTT インターコミュニケーション・センター)



(パナソニック クリエイティブミュージアム AkeruE)



③ 本校への還元

最新の設備、それを活用する能力、知的好奇心の高さ（東大院生）、などどれをとっても本校の及ぶところではなく、同じところを目標にすることは到底できないが、STEAMの目指すところの一端を知ることができた。最新科学技術を用いた表現としての芸術、ありたい未来をデザインする力、新しい価値を創造する力など、本校が中間・最終アウトプットとしている要素を体感することができた。STEAM探究にかかわる教員の研修として、十分に還元できる内容であった。次年度以降もより多くの教師にぜひ参加してほしい研修である。また、NTTやパナソニックの施設は生徒の研修先として非常に有意義である。国立科学博物館や東京大学を含め、東京研修を企画することも可能だと考える。また、ドルトン東京学園は探究活動の連携先として相互に生徒派遣することが可能になった。学校の近くにNTTの研修施設があり、宿泊可能という情報もいただいた。

訪問先 神戸大学附属中等教育学校

① 日時 令和7年2月8日（土）

② 視察項目

第1部 全体会

・基調報告、SSH報告、講演「学習指導と評価ー単元づくりに着目してー」

講師 二井 正浩氏

第2部 公開授業

・データサイエンスⅡについて

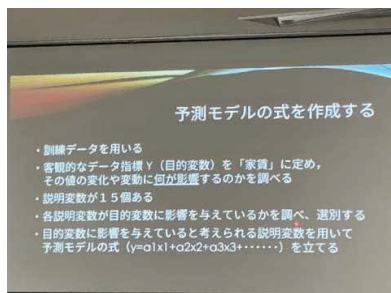


写真1 課題の提示

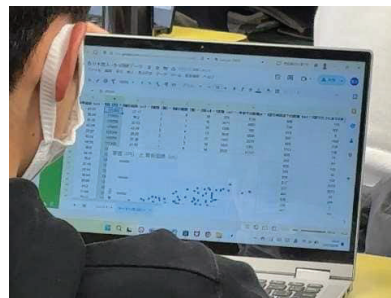


写真2 個人で課題に取り組む様子



写真3 グループで協議

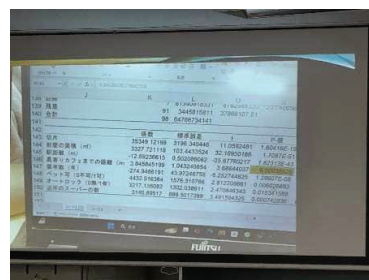


写真4 全体共有

・3～6年生 Kobe ポートインテリジェンス・プロジェクト(KP)について

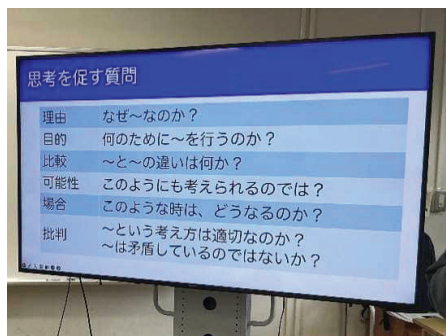


写真5 思考を促す質問の例

写真6 グループ内発表の様子



写真7 全体発表の様子

③ 本校への還元

○データサイエンスについて

- ・本校で実施予定の科目「デジタルメディア」は、探究に深みを持たせる上で非常に重要。「デジタルメディア」では、まず様々な統計処理のスキルを学んだうえで、それらを課題に応じてみずから選択し活用していく課題を設定することが必要であろう。その際、現実の社会に即したリアルな課題の設定が求められる。
- ・授業を担当する教員の負担が大きい。統計学やデータサイエンスについて、教員は独学で学ぶ場合が多いであろう。また、データの準備や課題の設定などにも多くの時間と労力を要することが考えられる。
- ・まずは本校生徒の表計算ソフト等の操作経験やスキルをつけることが必要。これをどのように補っていくのが課題である。

○先行研究の重要性について

- ・多くの生徒の発表に共通していたのは、「先行研究の調査が非常に充実している」ということと、発表や探究そのものに非常に意欲的に取り組んでいる様子がみられたことであった。
- ・人文科学系では、現代社会や身の回りの状況について「理想」と「現実」のギャップに着目させ、その差が生じていることに対する怒りや不満をRQにしていくよ

う指導されていた。その際、「理想」と「現実」のギャップ（つまり問題となっている状況）を正確に把握することに先行研究が役立っていた。また、物理系のテーマでも、自身の研究テーマに関する先行研究をしっかりと調べられていることが、具体的なRQの設定や、仮説の設定につながっていた。

○異学年による協働について

- ・異学年で探究の途中経過を共有したり、発表を聞き合う機会を多く設けることは、本校のSTEAM探究科にとっても良い影響を与えるのではないだろうか。
- ・後輩にとっては、先輩の探究のプロセスや成果を何度も聞くことで、自身の今後の探究に見通しをもって取り組めることが期待できる。また、素晴らしい取り組みをしている先輩の姿に影響を受け、探究に対する意欲を高める後輩もあらわれるかもしれない。

○「質問する力」を育てるための指導について

- ・「思考を促す質問」をする力が伸びれば、生徒同士が互いの探究を深め合うことにつながるかもしれない。また、「思考を促す質問」は自分に対しても問うことができ、それによって自身の探究を自ら深めていける可能性もある。
- ・いつ、どうやってそのような指導ができるかが課題。

○校内の環境整備について

- ・I C T機器については神大附属と本校ではほとんど差はなかった。
- ・教室の窓は透明で、外からでも教室の様子を見ることができた。開放的な雰囲気があるだけでなく、教員同士の授業観察・授業研究もしやすいと思われる。カーテンを設置することで、更衣場所としても使用できる。
- ・廊下には、生徒が作った探究のポスターやポスターの作り方に関する掲示物が貼ってあった。これの効果の有無は分からないが、生徒のポスターの掲示場所を増やす程度であれば負担は大きくないので、試しに行ってみてはどうか。

(写真8・9)



写真8 廊下に掲示してある生徒の探究発表ポスター



写真9 廊下から見た教室

訪問先 茨城県立水海道第一高等学校

- ① 日時 令和7年2月13日（木）13:00～16:00
- ② 視察項目 高等学校のブランディングと探究活動
 - (1) 学校長との情報交換
 - (2) 「総合的な探究の時間」見学
- ③ 内容
 - (1) 学校長との情報交換内容

- ・ブランドカラーを大事にする。色がまとまりを作る。色が強さを作る。広告においては「印象」を作る。
- ・一点突破。全国区で常連になる売りを作る。等
- ・中学生全員の探究発表会の見学し（グループ発表と質疑応答）特に3年生の発表レベルは高く、質問や意見も核心を突く優れたものが多くあった。

④ 本校への還元

- ・学校の置かれた状況は異なるが、パンフレットやキャッチフレーズのあり方等、ブランディングに向けての多くのヒントが得られた
- ・探究活動について、企業とのコラボレーションや教育コンサルタント会社との契約など、外部を活用した日本一面白い探究活動というコンセプトは、本校の探究活動の一つの方向性を示すものとなった。



創立者 青山忠誠(1859-1887)による^{きごう}揮毫。
私立篠山中年学舎の創設以来の建学の精神
は、『一貫之』(一^{いつもつ}以てこれを貫^{つらぬ}く)である。
一生涯を通じて真心や思いやりの心を大切に
した生き方を貫くという志を表している。

2024年度(令和6年度)

「文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)」事業報告書

発行日 2025年(令和7年)3月28日

発行者 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

〒669-2318 兵庫県丹波篠山市大熊 369

TEL 079-552-0047 FAX 079-552-0653